



全社環境実行計画

マンダムでは、全社で取り組むべき「環境テーマ」を設定しています。「全社環境実行計画」は、「環境テーマ」に関わる部門が参画する「環境推進会議」で審議、進捗管理、課題解決に向けた協議を行い、1年間の活動結果を総括し、来年度への改善に努めています。

今年度の2014年から2016年の3カ年は、第11次中期経営計画の対象期間となることから、マンダムグループ中期(2014年度～2016年度)「環境テーマ」を新たに設定しました。

 :がんばりました  :がんばります

2013年度目標と実績

環境テーマ	2013年度の目標	2013年度の実績	評価
環境マネジメントの推進	環境管理体制	マンダムグループ全体における、環境マネジメントシステムの在り方の研究	外部機関の評価を含めて現状課題を抽出し、マンダムグループの各サイトにおける活動ゴール案を策定 
	人財育成	環境啓発情報の計画的な配信方法の策定と継続実施	社会的な環境課題を全社員で共有するための社内情報配信方法を策定し、継続的に定期配信するための情報を蓄積 
	環境啓発活動		
環境にやさしい製品づくり	製品の環境負荷低減	「製品の環境配慮ワーキング活動」による、製品環境負荷低減に向けた実績・仕組みづくり	・製品リニューアル・リファイン時の容器包装のReduce(減量)を実施 ・新製品開発時の環境配慮評価プロセスを見直し、今後の仕組みに関する部門間協議の結果を集約 
	LCAの推進	製品の環境配慮を「見える化」できるLCAの研究	LCA研究結果から、特定した既存製品の環境負荷低減量を算出し、今後の製品開発における環境配慮の「価値化」事例として提案報告 
	販促物の環境負荷低減	「販促業務における環境推進ガイドライン」の精度向上と、販促物の環境負荷低減実施結果の報告	・「販促業務における環境推進ガイドライン」の精度向上と販促物の環境負荷低減を実施 ・「販促物の無在庫運用システム」活用による環境負荷低減量を算定報告 
地球環境保全の推進	省エネルギーによるCO ₂ の排出削減	生産 ・「省エネ法」の事業者目標達成に向けた中長期計画案の策定 ・エネルギー使用量原単位※1で、2012年度比1%削減	エネルギー使用量原単位で、2012年度比104.2% 
		オフィス ・「省エネ法」の事業者目標達成に向けた、「エネルギー削減ワーキング活動」による中長期計画案の策定 ・エネルギー使用量原単位※2で、2012年度比1%削減	・外部機関の省エネルギー診断を活用し、照明機器・空調機の更新などによる中長期エネルギー使用量削減計画案を策定 ・エネルギー使用量原単位で、2012年度比2.8%削減 
循環型社会の形成	廃棄物の削減	生産 排出量原単位※3で、2012年度以下	排出量原単位 25.8kg/千個 で、2012年度比105.6% 
		オフィス 廃棄物分別ルール遵守徹底と、効果測定結果の報告	・本社ビル廃棄物の分別排出に関する社内ルール説明会を実施 ・本社ビルの廃棄物排出量は、2012年度比117.7% 
環境リスクの低減	環境リスク対応	水資源の有効活用 本社ビル節水型設備を追加導入するための調査と導入案の報告	本社ビルにおける節水型設備の追加導入案を策定し、効果性の調査結果を報告 
		大阪府の「みどりの風促進区域重点緑化事業」協賛の継続	大阪府の「みどりの風促進区域重点緑化事業」への協賛を継続して実施 
		生物多様性の取り組み方向性に基じた、活動内容の調査と提案	生物多様性の取り組みとして、製品を製造するための水源地保全に関する調査を実施して、対応方法を策定・提案 
		海外グループ会社への環境負荷低減活動浸透方法の策定	海外グループ会社の環境パフォーマンスデータの測定可能範囲・精度に関する調査を実施し、今後の環境負荷低減活動の取り組み方法を策定 
		フロン回収破壊法の適用を受ける装置機器の廃棄と入れ替えに関する社内ルールの見直し	・技術開発センターの所有する装置機器を総点検し、フロンを冷媒として使用する装置機器をリストアップ ・社内ルールの見直しは継続実施中 

※1 完成品1,000個生産するのに要したエネルギー使用量(GJ/千個) ※2 完成品1,000個生産するのに要したエネルギー使用量(GJ/m²)
※3 完成品1,000個生産するのに要した重量(kg/千個)

マンダムグループ中期(2014年度～2016年度)環境テーマ

「環境保全考働」のビジョン	3カ年活動テーマ
社会との円滑な環境コミュニケーションの実現	環境問題の改善に向けたステークホルダーとの接点の拡大
持続可能な社会に向けた「お役立ち」の実現	「環境保全考働」を推進するための重要な側面の特定と対応
環境に配慮した商品づくりとお客様満足の両立	「商品エコポリシー」の反映強化

第三者意見



立教大学経営学部 教授
高岡 美佳 氏

「考働レポート2014」の記述をふまえ、

株式会社マンダムおよび国内外の関係会社の活動に関して、

第三者意見を述べます。

全体を通して、「美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする」というマンダムグループの基本理念を反映した事業/社会貢献活動の内容がわかる、良いレポートだと思います。また、社員一人ひとりが自ら考えて働く「考働」という考え方をベースに、各ステークホルダーに対してマンダムがどのような「お役立ち」を実践しているかが記述されており、わかりやすいレポートとなっている点が特徴です。

今回のレポートは、トップメッセージにもあるように、グローバル展開のための商品づくりと人財育成が一つのキーワードとなっているようです。西村代表取締役社長が述べられているように、マンダムがビジネスを展開している国の中間所得者層は2020年に現在の約1.5倍へと増加すると同時に、消費者のニーズはますます多様化していきます。ブランドの統一性を保ちながら、多様化するニーズに応える商品づくりをしていくためには、英語が話せるだけでなく、多様な価値観を理解して現地でのリーダーシップを発揮できる人財が必要となるでしょう。マンダムの海外売上高は

40%に達しており、今後も拡大する方向にあるので、今年度創設した「若手グローバル人財育成制度」のような仕組みを積極的に推し進めていただきたいと思います。

もう一つのキーワードは、環境と経済が両立する商品づくりでしょう。マンダムは、環境基本方針の一部内容を見直し、2014年4月に「商品エコポリシー」を制定しました。そこでは、環境配慮が商品価値の一つと位置づけられています。今や、メーカーが製造過程における環境負荷を削減するのは当然のこととして、今後は、商品を購入したお客様先での環境負荷低減に寄与する商品をつくるのがよりいっそう求められる時代となります。特集02で掲載されているように、マンダムは、お客様先でのCO₂削減やゴミ削減につながる商品を販売しており、この点を高く評価したいと思います。一方で、このような商品を消費することの意味がもっと世の中に広まり、社会全体での環境負荷低減につながるよう、消費者とのコミュニケーションにも力を入れる必要があります。レポート内のステークホルダー・ダイアロ

グにあるように、他のステークホルダーと協働して、消費者への訴求に取り組んでいただきたいと思います。

その他、今回のレポートでは、従業員関連の数値データが掲載されるなど、情報開示の点でも進展が見られました。WEB版とのすみわけが難しいところではありますが、基本データとなる部分については、冊子での開示が好ましいと感じます。

最後になりますが、次年度以降に検討していただきたい点を2つあげます。一つは、2013年5月に改訂されたGRIガイドライン第4版をふまえ、重要性へのフォーカスをしていただきたいことです。何を重要と考え、どのように開示情報を特定したのかをしっかりと説明することで、レポートを通じたステークホルダーとのコミュニケーションもいっそう進むと考えます。もう一つは、サプライチェーンの視点の導入です。原材料の仕入先など、サプライチェーン全体での環境負荷低減や人権への配慮がなされていることはマンダムにとっても重要なことです。次年度のレポートでの進展を期待します。

読者の皆様へ

マンダムグループは基本理念である「美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする」を使命とし、生活者の皆様に必要とされ、継続し続ける企業でありたいと考えています。

企業理念を実現するために企業行動指針を定め、ステークホルダーと良好な関係を築きながら、社員一人ひとりが自ら考え働く「考働」を基本に、さまざまな社会的課題解決へ貢献することで、持続可能な社会に向けて「お役立ち」の実現を目指しています。

今年度は、NPO法人ごみじゃぱん様の減装研究会におけるアンケート調査結果から、「環境に配慮した商品づくりとお客様満足の両立(マンダムは何をなすべ

きか)」をテーマに、ステークホルダー・ダイアログを開催し、商品の環境配慮に関する新しい価値の創造や、それを実現するために生活者とのコミュニケーションの重要性を再認識することができました。

また、第三者意見では、GRIガイドライン第4版への対応、サプライチェーンに対する取り組みなど貴重なご意見・課題をいただきました。

前述のステークホルダー・ダイアログや第三者意見をふまえ、企業の社会的責任が高まる中、経営理念の一つに掲げる「社会との共存共栄」の実践に向け、グループ全体で推進・実践できる体制づくりに取り組んでまいります。



取締役 常務執行役員
人事部・総務部・CS統括部・
法務室 統括

北村 達芳